

Governance ガバナンス

サステナビリティボンドとしてのJICA債

SDGs達成に向け民間資金を動員

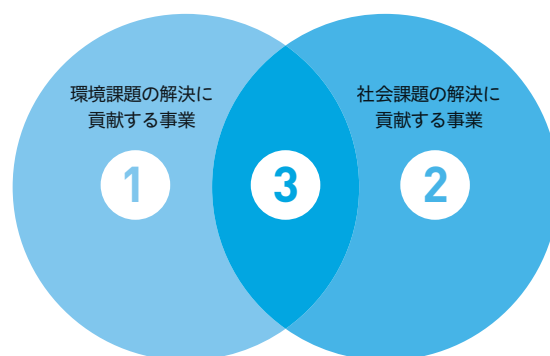
JICA債を通じて世界の課題に取り組む

JICAは、有償資金協力の実施に必要な資金の一部を市場から調達するため、2008年からJICA債を発行しています。2016年には、JICA事業の社会的価値を資金調達にも反映させることを目指し、国内で初めてソーシャルボンドを発行しました。ソーシャルボンドとは、債券発行により調達した資金を社会課題の解決に寄与する事業に限定して充当する債券です。また、有償資金協力事業には再生可能エネルギーの開発や自然環境保全と地域住民の生計向上を同時に支援するなど、環境面の課題解決にも貢献する事業が含まれています。

このような多様なインパクトをより分かりやすく発信するため、JICAは2023年に債券フレームワークを刷新し、「JICAソーシャル／サステナビリティボンドフレームワーク」を公表しました。サステナビリティボンドとは、社会課題解決に資する事業に加え、環境課題の解決に貢献する事業にも調達資金を充当する債券です。この新たなフレームワークに基づき、同年6月以降、すべての債券を「サステナビリティボンド」として発行しています。

2026年3月末までのソーシャルボンドとサステナビリティボンドの累計発行額は、海外では米ドル建て債券が32.5億ドル、国内では円建て債券が5,770億円に上りました。JICA債はESG投資やSDGsへの貢献ツールとして支持され、2026年3月末までに国内の371の投資家から投資表明がありました。

資金の使途



サステナビリティボンド

環境と社会の両方の課題解決に貢献する債券
例：①+③や②+③など

アフリカ・TICADボンドの発行

2025年8月に横浜で第9回アフリカ開発会議（TICAD9）が開催されました。アフリカは、人口増加や市場拡大が見込まれる一方、貧困の解消や人間開発、基礎インフラ整備など、依然として多くの開発課題を抱える地域です。

このTICAD9の開催に合わせJICAは、アフリカの自立的・持続的成長の後押しと民間投資を推進するため、「アフリカ・TICADボンド」を発行しました。アフリカをテーマとする債券は2019年以来2回目です。同債券で調達した資金は、エジプトおよびマダガスカル地域を含むアフリカ地域で実施する有償資金協力事業に充当し、この地域の成長を後押ししていきます。

気軽に始める国際協力

JICAは1万円から購入可能な個人向け「JICA SDGs債」の発行を継続しています。個人が気軽に国際協力に参加する手段として歓迎する声が届いています。今後も身近な国際協力ツールであるJICA債の発行を通じて、民間資金を動員し、開発途上国そして世界全体の持続的な発展に貢献していきます。

